

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	アトリエ『プチ・ニコラ』 (2)
Author(s)	安藤, 麻貴; 野呂, 康; 平松, 英夫
Citation	フランス文学, 34 : 65 - 79
Issue Date	2023-06-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00054190
Right	
Relation	



アトリエ『プチ・ニコラ』(2)

I. 日本語版『プチ・ニコラ』はいかにしてできたか(翻訳者インタビュー)

II. サンペ追悼：『プチ・ニコラ』におけるイラストの一つの特徴

III. 資料編補遺

安藤麻貴／野呂康／平松英夫

はじめに

本稿は2022年度日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会での「アトリエ『プチ・ニコラ』III」の記録である。今回は、第1部で日本語版『プチ・ニコラ』の翻訳者へのインタビューを紹介した。日本語版『プチ・ニコラ』には二系統あり¹、今回は本邦初訳である曾根元吉・一羽昌子訳を引き継いだ小野萬吉氏への質問を試みた。質問項目は事前に支部会員に募り、さらに企画者が追加した。小野氏からは当日欠席の旨お伺いしていたため、企画者が質問と回答を読み上げ、コメントを挟んで発表とした。第2部では、サンペの訃報を受け、追悼の意を込めて野呂が発表をした。

以下、I. 翻訳者へのQ&Aと論者によるコメント、II. サンペ追悼、III. 資料編(書誌補遺)で構成される²。

I. 翻訳者インタビュー³

訳者について

Q1 「小野萬吉」のペンネームの由来は何ですか？

A 母方の祖父の姓と父方の祖父の名です。

Q2 差し支えなければ、本名を教えてください。

A 清多英樹と申します。

¹ 安藤麻貴、野呂康、平松英夫「アトリエ『プチ・ニコラ』(共著論考)、『フランス文学』日本フランス語フランス文学会・中国・四国支部、No.33、2021、p.95-122。「広島大学 学術情報リポジトリ」で公開されている。<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00051038>

² 以下邦訳は世界文化社版(すべて2020年刊行のため、煩瑣を避けるべく、以下では刊行年を省略する)に、原文は原則として Gallimard 社の文庫版(<folio>)による。但し叢書 folio の出版年は記載がないか、一定しないため(例えば第一巻には「Denoël, 1960」としか記載がないが、2010年に納本された刊本である)、初版本の刊行年(1960~1964年)として把握されたい。論旨上必要な場合には、初出年を明記する。邦訳未収録作品については、都度出典を示す。

³ 本論ではQ(質問)、A(回答)、C(著者によるコメントと補足説明)を区別する。

C 京都大学文学研究科フランス文学を修了したのち、創価大学で教鞭をとられていた。アルベール・カミュに関する多数の論考の他、小野萬吉（万吉）名でスパイ小説などの翻訳も手がけている。

日本語版の成立

Q3 出版経緯について教えてください。

A 曾根先生ご夫妻からの、自分たちは高齢なので、偕成社の『プチ・ニコラ』再版の話は君にやって貰いたいという話が、私にとっての始まりでした。先生は、ジャン・コクトーがお好きで、全集（東京創元社）の監修もなさっています。ボリス・ヴィアンの『日々の泡』など、多数の翻訳をされておられます。出版社からは、表現が古くなったので、今風に書き換えて欲しいとの依頼でした。例えば、フランク永井の歌でおなじみの「イカす」という言葉など⁴、今は誰も使わないから、というような具体的なお話しもありました。これは、私の推測ですが、文春文庫版は奥様の翻訳されたものを谷口先生⁵が補足されたものでしょう。奥様は、横浜でフランス語の先生をなさっていました。

世界文化社がこの出版に至ったのは、フランクフルトのブックフェアで、著作権がフリーになっていることに営業社員の方が気付いて、社内会議にはかり、採用されたと聞いています。

日本に最初に『プチ・ニコラ』を紹介したのが、曾根元吉・一羽昌子両先生で、1976年に文春文庫から『わんぱくニコラ』(1)(2)を刊行されました。それを偕成社が、偕成社文庫全5巻として出すときに、曾根先生からバトンタッチを受けた次第で、ドノエル版5冊が翻訳されたこととなります。偕成社版の第5巻『ジョアシヤンの悩み』などは、一時異様な高値で販売されていたこともありました。

ゴシニの娘のアンヌが、父親の未完の原稿を整理した通称『白ニコラ』（表紙が白いので）も、偕成社がハードカバーで2006年から5冊のシリーズにしました。フランスでは65万部も売れたのに、日本ではまったく売れませんでした。余程訳がまずかったものと思われます。でも、話の内容は、こちらの方が、味のあるものが多いようです。アンヌは二匹目のドジョウをねらって通称『赤ニコラ』を出します。それから、最後に、大判の通称『風船ニコラ』。これらのお話しは未刊のままです。

C 『白ニコラ』は偕成社から『かえってきたプチ・ニコラ』シリーズとして翻訳された。『赤ニコラ』と『風船』には未だ邦訳がない。

⁴ 曾根（曾根）元吉は本名を谷口正元という(1912-2000)。明治大学で教鞭をとっていたほか、東京創元社の編集長も務めていた。

⁵ フランク永井の『西銀座駅前』（1958年のヒット曲）。

Q4 日本語版の反響について

A 偕成社の初めの児童文庫本（復刊2冊、新訳3冊）、これはまあまあ売れました。そう言うわけで、第2シリーズ「かえってきたプチニコラ」（全5巻）に進んだわけです。この際、文庫版でなくハードカバー本にしたのが、たぶん大失敗で価格も1000円台になり余り売れませんでした。マンネリも見逃せない要素としてあったのでしょうか。

今回の世界文化社版も、編集部からは、発刊以来、何の連絡もありません。フランスでは50万部を突破したそうですが、なかなか日本では……。たぶんこれからも、奇抜な一部のフアンの間で読まれてゆくのだと思います。

C 「復刊2冊」は上述の文春文庫版（1）（2）を指す。「新訳3冊」を合わせて『プチ・ニコラ』<偕成社文庫>として5冊本となった。

旧訳から新訳へ

Q5 新訳が出ました。旧訳に修正を加えるにあたり特に配慮された点は？

A 正確に翻訳すること。人名にも、間違いがありました。そのような努力の甲斐なく、まだ、一人、間違ってしまった人物がいます。さて、誰でしょうか？ 訳者として、気付くのが少し遅れて、痛恨の極みです。

子供たちの名前のルーツを探るのは、楽しい作業になるでしょう。ジョアシャンについて、発売されたCDを大学に向かう車の中で聞いていて、ジョアキムと発音されていたので、思わずブレーキを踏みそうになりました。100キロ越えの高速走行中でしたが、それほど、びっくりしたのです。世界文化社版でこれを訂正出来たことは天恵でした。もともとは、スペインのホアキン（Joaquin）からきていると思います。リュフユスの由来は、ローマの有名な百人隊長でしょう。

C 筆者の予想ではニコラの友人のCyrille（シリユ→シリアル）⁶もしくはニコラの初恋の相手 Marie-Edwige（マリ・エドウィッジ→マリ=エドヴィジュ）。果たして正解はあるのだろうか？

ジョアキム（Joachim）はヘブライ語起源の名前。16世紀の詩人ジョアシャン・デュベレー（Joachim du Bellay）の名が文学史上広く知られるが、現代のファーストネームとしてはジョアキムと発音されるのが一般的のようである。

リュフユス（Rufus）の語源は「赤い、赤毛の」を意味するラテン語。ただし、登場人物としてのリュフユスが赤毛という情報はない。小野氏の指摘にある百人隊長の候補として Titus Flavius Rufus が考えられるが詳細は不明である。

⁶ 「新任の視学官がきたら」（« On a eu l'inspecteur »）、世界文化社版第1巻、p. 61 参照。

日本における『プチ・ニコラ』

Q6 偕成社版第1巻の「解説」（1995年9月付け）に、「かぎりない善意につつまれた『プチ・ニコラ』の小さな世界が、いまの日本でどこまで広がってゆけるものか、ここはじっくりと見とどけたいものです」（p. 228-229）と書かれています。新訳の反響を含め、日本における受容についてご感想を。

A 残念ながら、売れない本なので、反響はほとんどありません。『プチ・ニコラ』を、いわゆる児童書とするのは、間違いでしょう。最初の、文春文庫のように、児童ではない読者層を設定するのが正解なのだと考えます。

C 文春文庫は通常の文庫版のサイズ（A6判）で⁷、字も小さく、漢字にルビはほぼ振られていない。そもそも、フランスで『プチ・ニコラ』の文章版の初出は新聞という媒体であり、ゴシニが大人を主な読者としていたことが推測できる。

Q7 『プチ・ニコラ』は国や世代を問わず、普遍性がある物語だと思います。でも日本ではフランスほどの人気はないようです。なぜなのでしょう？

A 売れない理由は、いくつかあると思いますが…。

ひとつ大きな要因は、小学生が殴り合うストーリーが、今の日本では御法度に他ならないからです。また、フランスの日常家庭生活が、日本では、まったく興味の対象とならず、理解されてもいないからでもあるでしょう。

C 小野氏の見解に加えて、ユーモアなど笑いをめぐる文化的な差異も指摘できる。洒落や掛詞は別の言語に置き換えづらいという難点もある。

Q8 漢字と仮名のバランス、ルビ、段落分けなど、子供にも読みやすい工夫は、先生のご意向でしょうか？

A 出版社には、これらのためのルールがあります。訳者はこれに逆りません。ただただ、面倒になるだけなので。偕成社版の場合、すべて編集部の作業でこちらには相談ありませんでしたが、世界文化社版では各話のタイトルを私に任せてくれましたので、多くを書き換えました。

C 漢字にどの程度ルビをふるのかは読者の問題と直結する。文春文庫ではほぼ皆無だったが、最新の世界文化社版では漢数字を除く全ての漢字にルビが施してある。『プチ・ニコラ』は現在、より低い年齢層の読者に照準を合わせていると考えられよう。

⁷ 偕成社文庫はB6判、世界文化社版は四六判。

Q9 挿絵の配置は先生が？それとも出版社の意向が反映されるのでしょうか？

A 訳者はテキストを翻訳するだけです。あとはすべて、出版社の仕事です。ただ、出版社にも社風がありますね。偕成社では、こちらは翻訳マシーンでした。しかし世界文化社では、その点、いくつかの相談も受け、こちらの意見を入れて貰ったこともありました。

C 偕成社版と世界文化社版では、同じ物語でも挿絵そのものや配置が異なっている。その理由として、フランス本国で版元の変更等を機に挿絵に修正や変更（場合によっては差し替え）が行われていることを指摘できる。

読者について

Q10 どのような読者を想定して訳出されましたか？

A あえて言えば、女子中高校生ですね。

C 作者の想定する読者層が作品を発表する媒体と関わるとして、出版社と訳者のそれは、作品の受容を直接的に左右する要因と考えられる。

Q11 ニコラは誰に語りかけているのでしょうか？

『Bonjour! プチ・ニコラ』に収録されている「ママにすてきな花束を」(« Le chouette bouquet ») は次の一節で終わっています。

読者のみんなは、言いたいように言えばいいさ。だけどね、ぼくのママは最高のママなんだぞ！

(世界文化社版第1巻、p. 103)

Vous direz ce que vous voudrez, mais ma maman, elle est chouette ! (Gallimard, p. 72)

« Vous » は「読者」と訳されているのですが、ニコラが語り掛けているこの « Vous (読者) » を先生は「どのような存在」とお考えでしょうか？

A 『プチ・ニコラ』の初出は、ボルドーの地方紙の日曜版ですので、これはその新聞の読者です。これを楽しみにしていたのが、子供だったのか？大人だったのか？わかりませんが、どちらにも通じるようにと。

C 『プチ・ニコラ』はニコラによる一人称の物語だが、この物語に限らず、時折 « vous » という二人称が現れる。読者はこの〈呼びかけ〉によって、ニコラにより親近感を抱くのではないだろうか。なお、『プチ・ニコラ』の文章版の初出は 1959 年、*Sud-Ouest dimanche* というフランス南西部ボルドーを中心とする新聞の日曜版⁸

⁸ 物語成立の経緯については、前稿 (p. 95-96) を参照されたい (注 1)。

である。

原書と邦訳

Q12 原文で読まなければニュアンスが伝わらないとお感じになった表現は？ た
とえば、ニコラの口癖の「C'est chouette !」などはいかがでしょう？

A 具体例はもう思い出せませんが、だいたい、何時間も何日も停滞したのは地口の
類です。洒落、だじゃれ、掛詞も、大変でした。フランス人に聞いても、わからな
いものもありました。そのような場合は、すべてストーリーを汲んで超訳対応です。
「C'est chouette !」も、その場その場で適当に変化を付けて、いろいろに訳したと
思います。

これは、『プチ・ニコラ』ではありませんが、ある小説の訳出不能の二人の会話：

— Seychelles !

— Quelle échelle ?

C 「C'est chouette !」は、曾根・一羽訳で「イカす」となっていたところ、小野氏が
偕成社の再版にあたり、同社の要請を受けて改訳したと述べる表現である。

Q13 翻訳で最も苦勞した点を教えてください。

A まずは地口、洒落、だじゃれの類。そして地方色、時代性の要素も見逃せません。
また、訳語訳文の定型化を回避しつつ、出来るだけ、原文のリズムを守るよう心が
けました。

C 文章やイラストから醸し出されるユーモアはともかく、フランス語に基づいたシ
ャレは翻訳では伝えようがない。一例を挙げるなら、映画版第1作の冒頭でも披露
された、vélo de course「競走用自転車」と faire des courses「買い物をする」はフラン
ス語の単数形と複数形が同音であること、慣用表現として意味が異なることを踏ま
えて初めて笑いを誘う。さらに作品内の設定として、このフランス語の勘違いを認
識せざしたり顔で披露するのが、クラスでビリ（劣等生）のクロテールである点、
まさに面目躍如といったところが⁹。

Q13bis この部分を先生が訳されるとすると・・・？

A 「この競技用自転車は、ママの買物の役に立つんだよ」ぐらいで軽く流すかも知

⁹ « Je lui ai demandé à Clotaire comment ça se faisait qu'il y avait un porte-bagages sur son vélo de course et il m'a répondu que, justement, c'est pour ça que c'était un vélo de course ; le porte-bagages lui servait à faire des courses pour sa maman. » (« Je fais des courses » dans *Histoires inédites du Petit Nicolas*, volume 2, IMAV éditions, 2006, p. 229)

れません。ひらめきは部分的に訪れるのではなく、その話の最初の一行からの積み重ねの結果なので、さてどうなったか、その場に行かないとわかりません。

Q14 訳出上の工夫について、特に注意した点を教えてください。

A 原文のリズムを伝えることに留意しました。切羽詰まればいわゆる超訳もやむなしといったところです。

Q15 記憶に残る訳例がありますか？

A ひとつ、単語レベルの工夫になりますが、どの話だったか¹⁰（シリーズの中でも、傑作のひとつと私は思っているのですが）。例によってニコラが空想にふける部分で「せむし男」という訳出をしたところ、これが忌避語に相当して、驚いたことに「腰まがり男」と初稿にでていました。さすがに承服しがたく、ほとんど唯一の例外として、偕成社の編集部とやり合った記憶があります。もう、確認する気力がないので申し訳ないのですが、「怪人」でお茶を濁しました。

C 正確には「謎の怪人」とされている。

日本とフランス

Q16 作中の子どもの喧嘩について

ケンカの場面が多く、挿絵もたくさん載せられています。興味深いことに、『プチ・ニコラのなやみ』の「くすねたチョーク」(« La craie ») では、殴り合っている脇で傍観者が、「遊び出すと、すぐこれだ！」(« Pour une fois qu'on rigolait ! ») と、まるでケンカは遊びにつきものであるかのような発言をしています。

今日の日本では、ケンカは遊びにつきものであるとまでは言えないと思うのですが、ケンカの場面をとおして、子供の読者たちに伝えたいと思われることなどありますか。



(「くすねたチョーク」(« La craie »)、世界文化社版第5巻、p. 208 ; Gallimard, p. 137-138¹⁾)

A 喜寿の私の世代には、喧嘩の作法がありました。血が出るようには殴らない、急所は避けるなど… でも、今は、相手の身体に触れることも、できないようです。ご時勢といえ、その通りなのでしょう。喧嘩は、潜在して、今は陰湿ないじめにとって

¹⁰ 『かえってきたプチ・ニコラ2』所収の「ハンパの宿題」(« Les devoirs »)。

かわられたのではないのでしょうか。

『プチ・ニコラ』において、喧嘩はひとつの儀式のようなもの。でも、なぐりっこをして、仲直りしたら、気持ちいいよなんて、今の子供たちに言えませんね。男の子は乱暴でいつも殴りあい、女の子はおとなしくていつもお人形さんで遊ぶ、このような世界は、もはや文化遺産なのでしょう。

子供たちには、次の質問が好例になりますが、パパとママとニコラの三角形が構成する家族の愛情が伝われば良いなあと願います。

C ニコラたちのケンカは、友情確認のための「儀式」だ。憎しみから発しない、このようなケンカは、かつて日本にも存在した。だが、今日の読者には、作者がケンカを通して言いたいことが伝わらないかもしれない。今日の読者に確実に伝わる作品の魅力のひとつとしては、私見では家族愛が挙げられよう。

Q17 家庭観の類似についてご質問します。

『Bonjour! プチ・ニコラ』に収められた「ママにすてきな花束を」（既出）と、『プチ・ニコラの夏休み』に収められた「出発ホームは人、人、人」（«Le départ»）を読んで、母子関係が感傷的に描かれていると感じました。

前者では、一本だけになってしまったくしゃくしゃの花束の花を泣きながら母に渡すニコラに対して、彼女は抱擁しながら次のように答えていて、思わずほろりとさせられます。

ママは [...] こんなにきれいな花束はいままでもらったことがない [...]

(世界文化社版第1巻、p. 103 ; Gallimard, p. 72)

後者では、今度は母の方が、夏休みにニコラを家族から離して臨海学校へ送るときに涙しています¹¹。

でも、一つだけおかしな出来事がある。ニコラのママの目から落ちるものが、一日じゅうとまらない。いくら鼻をかんでもむだで、もう手のほどこしようもないほどだ……。

(世界文化社版第3巻、p. 116 ; Gallimard, p. 80)

親子関係をとおして、日本の子供たちやその親たちに伝えたいと思われる家庭観などありますか。

¹¹ 挿絵では、駅で子供を見送る母親の大半が涙を流している。父親で涙している人も一名いる（世界文化社第3巻、p. 122-123、および p. 125）。

- A 今も昔もこれからも、親は子を慈しむ。それ以上でも以下でもないでしょう。
- C フランス人といえば理知的でドライ。そんな印象をよそに、むしろ日本人好みともいえる感傷的な作風の『プチ・ニコラ』が人気を博していて、国民的作品にまでなっているのは面白い現象ではないか。『プチ・ニコラ』は、家族間の愛が学べる、教科書的な作品とも言えそうだ。

作中人物について

Q18 ニコラの友だちのワードを、どのようにとらえておられますか。



(世界文化社版、冒頭の登場人物紹介欄より)

『プチ・ニコラのなやみ』所収の「自慢の兄き、ジョナース」(«Jonas») で、ワードは兄のジョナースが一等兵になったと仲間に自慢します。しかし、リュフュスたちに反論され、仲間全員を相手にしたケンカに発展してしまいます。子供読者から、怖い存在としてとらえられてしまいそうなワードですが、先生のワード観をお聞かせください。

A ウードは、内弁慶ならぬ外弁慶です。家の内と外では、大違い。ワードの鼻パンチはきついけど、誰もこわがってはいない。メクサンのキックの方がもっときついのかも知れない。

このお話では、ゴシニの力量が遺憾なく発揮されています。自慢の兄貴が、かっこいい士官ではなくて、軍の食堂勤務だと、ほかならぬ兄貴の口から仲間に知られて¹²、(ワード自身が兄の雑役を知っていたのかどうかわかりませんが) とにかくメンツが丸つぶれになって敗走するワードを、最後にゴシニは救うのです。アルセストの一言で！

C 怖そうな印象を与えるワードは、その実、他の仲間と同じような子供だ。この挿話では、めずらしくワードは逃げ出しているが、オチにあるアルセストの発言¹³は、読者の笑いをとりつつ、ワードのメンツも回復させていて、一石二鳥の効果をあげ

¹² リュフュスの「戦場で兵隊を指揮するんですか？」という問いかけに対して、ジョナースは、「ぼくの仕事は、調理場で野菜の皮むき作業を監督する雑役なんだ。ぼくは調理場に配属されたのさ」と、ワードが信じていたのとは異なる返事をしている。また、「調理場にいると、とにかくたっぷり食べられるし、余りものもちょうだいできるんだ」と、ワードが恥ずかしくなるような一言もつけくわえている(世界文化社版第5巻、p. 198-199)。

¹³ 挿話の終わりでニコラは、アルセストが食いしん坊の観点から、「軍隊であんなに出世して、すごいところではたらいっているにいきんがあるなんて、ワードが自慢するのわかるよ」と語ったことを明かしている(同上、p. 199)。

ている。

Q19 最後に『プチ・ニコラ』の魅力を一言でお願いします。

A ゴシニのユーモアとサンペの挿絵の組み合わせですね。

C 文章に書かれたことをイラストにするのでも、イラストを文章で説明するのでもない、まさに唯一無二の**競力**関係の賜物である。イラストと文の孕むズレについては、IIのサンペ追悼で説明を試みる。

結びの言葉

『プチ・ニコラ』では、落語のように、必ず**オチ**がつきます。翻訳は、この最後の数行のための楽しい作業でした。よれよれの一輪の花束をもらったママ¹⁴も、グルメ一筋のアルセストも、それぞれ見事な**オチ**をつけたものです。これこそが、ゴシニの筆の真髄だと思います。

最後になりましたが、質問を寄せて下さった皆様に、深くお礼申し上げます。退職後、すっかりフランス語と縁の切れた生活がつづき、頭も心もなまりきっていて、まともな答えができずに心苦しい限りですが、皆様のご関心の満足にすこしでも資すればと思い、思いつくままにお答えしました。ご盛会をお祈りします¹⁵。

II. サンペ追悼：『プチ・ニコラ』におけるイラストの一つの特徴（野呂）

2022年8月11日に、『プチ・ニコラ』のイラストを担当していたジャン-ジャック・サンペが亡くなりました。サンペは1932年8月17日生まれですから、もう後1週間で90歳という年齢でした。

『プチ・ニコラ』シリーズはゴシニとの共同制作で、雑誌の連載と単行本化をもって1960年代にはすでに終結していたのですが、1977年にゴシニが亡くなり、再開の可能性も閉ざされます。しかし2000年代に入り、単行本未収録作品の書籍化や、未発表作品の発掘を機に、ゴシニの娘アンヌ・ゴシニの依頼を受けたサンペは、新たにイラストを付け加えていました。それゆえ本シリーズは、サンペにとって、キャリアの初期から晩年に至るまで続いた、文字通りのライフワークであったと言えるでしょう。

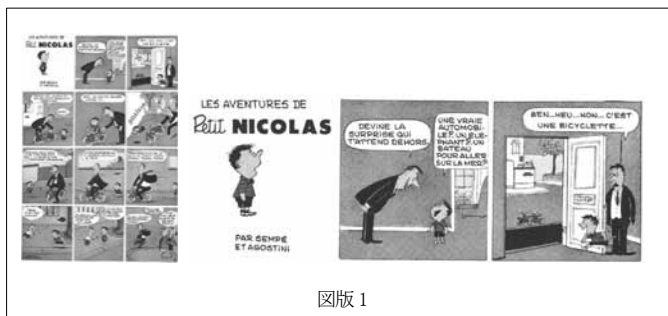
本論では追悼の意を込めて、1950～60年代にサンペが意識していたはずの、一つの工夫についてお話ししたいと思います。

¹⁴ 「ママにすてきな花束を」(既出)。

¹⁵ われわれの企画に賛同し、快く質問に応じてくださった小野氏にこの場をお借りして深謝申し上げます。また、支部会員の協力なくしてこの企画は実現しませんでした。御礼申し上げます。

1. マンガからイラストへ

『プチ・ニコラ』は1955年9月から翌年の5月まで、マンガ形式でベルギーの雑誌に連載されました。全28話で各話は例外なく12コマからなり、今日の漫画と同じように、セリフに吹き出しが用いられています（図版1¹⁶）。



図版 1

12コマの安定した配置から、整然とした印象を受けます。読者は左から右へ、上から下へとコマを追い、目を動かしながら読み進めるため、展開は理解できますが、絵ごとに、あるいは絵と絵の間に動きは感じられません。

次に文章版移行後¹⁷、第1作目のイラストを見ましょう（図版2¹⁸）。1959年の復活祭に合わせて、雑誌に掲載されたお話です。

復活祭のお祝いにニコラは友だちを招待します。チョコレート尽くしのおやつに子どもたちは大喜び。左の図では、今にも飛びつかんばかり様子が伺えます。右の図では、全員がお腹を壊して倒れています。まるでホラー映画の虐殺シーンのよう。食事の前後でほぼ同じ構図が用いられ、展開が表現されているのがわかるでしょう。2枚のイラストは、目で展開を追うマンガのような作りになっているのです。

サンペは時折、複数のイラストを用いて、時間の推移や展開を表現しています。例えば「サッカー」というお話でも、マンガのコマ割りのような画面展開がなされ

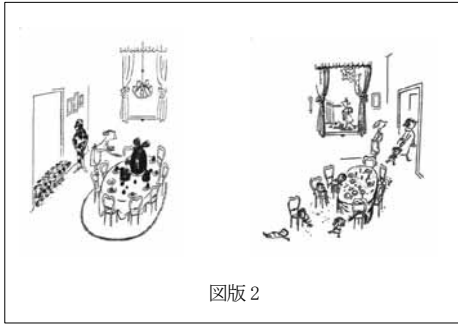
¹⁶ Sempé et Goscinny, *Le Petit Nicolas la Bande dessinée originale*, IMAV éditions, 2017, p. 34.

¹⁷ 以下では『プチ・ニコラ』の初出年代、そして単行本収録時の頁数を示す。今のところ初出情報は、以下のインターネットのサイトでしか確認できなさそうであるが（2023年2月16日参照）、書籍化されたマンガ版の記載と異なるところもあり、今後再確認が必要である。また、本稿 III 資料編で紹介する刊行されたばかりの資料集には、マンガのシナリオのタイプ原稿、刊行当時の図版、印刷前の原稿、雑誌掲載時の表紙など、貴重な資料が多数掲載されている。

<https://www.institut-goscinny.org/bibliographie/petit-nicolas-sud-ouest-dimanche/>

¹⁸ 1959年3月29日。「L'œuf de Pâques」 dans *Le Petit Nicolas Le ballon et autres histoires inédites*, IMAV éditions, 2009, p. 23-31.

ています (図版 3¹⁹)。



図版 2



図版 3

2. 展開と時間の推移

サンペは他にも、吹き出しを用いながら言葉にはほぼ頼らずに、イラストで展開を説明したりしています。幾つか例を示しましょう。



図版 4



図版 5



図版 6

図版 4 学校をサボった後ろめたさから悪夢にうなされるニコラ (「算数の授業をサボると²⁰)。1画面に複数の悪夢が描かれています。

図版 5 蹴ったボールで花瓶を割った説明 (「バラ色の花びんは、いざこ・・・²¹)。

¹⁹ 1959年10月11日。《Le football》, t.II, Gallimard, p. 66-73 (p. 66-86)。

²⁰ 1960年2月28日。《On a bien rigolé》, t.I, Gallimard, p. 126-132。ちなみに、本話の題名は最新の邦訳では「算数の授業をサボると・・・」、旧訳では「さぼってみたけれど」で、該当するイラストは旧版では吹き出しの中が日本語訳、新版ではフランス語原文のままに掲載されている。さらにもう一つ、現在入手可能な原文 (<folio>版) では、全く異なるイラストが掲載されている。イラストが差し替えられた理由は不明である。翻訳者である小野氏によると、翻訳でイラストに原語を残したのは単に出版社から依頼がなかったから、とのことである。

²¹ 1960年12月18日。《Le vase rose du salon》, t.II, Gallimard, p. 35-40。

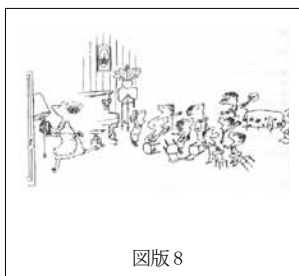
図版6 合言葉を3回言い、3回入場を拒否される場面。3回のやりとりを1つの吹き出しに詰め込んでいます（「合言葉は・・・²²」）。

3. 一目瞭然

これらは、複数のイラストで、あるいは吹き出しを利用して、展開や時間の推移を表す工夫と言えますが、私が一番感銘を受けたのは、次のような、いわば複数の場面を一つの画面に凝縮してしまう試みです。幾つか例を示しましょう。



図版7



図版8



図版9

図版7「おばあちゃん²³」というお話のイラストです。ママンのママンである、通称「メメ」ことおばあちゃんの訪問をニコラとママンは大歓迎。ところが、義理の母親を快く思わないパパは、正反対の方向に走り出します。右手の新聞と肘掛け椅子は、パパの休息を表象するアイテムでしょう。メメの訪問をめぐる正反対のリアクションから、この場に流れたはずの喜びと緊張感を一目で理解させる仕組みです。図版8「手品師・メクサン²⁴」では、手品を披露するメクサン、手品にケチをつけるニコラたち、危険を察知し、そそくさと物を避難させるメクサンのママンが大判に描かれ、展開の全てが1枚のイラストに凝集されています。

図版9「ないしょの手紙²⁵」というお話しです。パパの会社の社長さんから、ニコラにプレゼントが贈られてきます。パパは昇給してもらおうとの下心から、ニコラにお礼状を書かせようとします。パパは文面を推敲し、たびたびママンに意見を求めるのですが、その都度料理を中断されるママンはついにキレてしまいます。イラストには、苛立つパパ、呆れて無視するママン、手紙を書き続けるニコラが見えます。ところが文章では、ニコラは手紙を書くのが嫌で泣き喚いていますし、ママン

²² 1960年11月6日。《Les Invincibles》, *Histoires inédites du Petit Nicolas*, vol.1, 2004, p. 28-33.

²³ 1959年12月13日。《Mémé》, *Histoires inédites du Petit Nicolas*, vol.2, 2006, p. 126-131.

²⁴ 1962年3月25日。《Maixent, le magicien》, t.IV, p. 57-63.

²⁵ 1963年4月14日。《La lettre》, t.V, p. 14-21.

もわざと音を立てて扉を閉めたりして、だいぶ怒っている様子が伺えます。つまり文とイラストはだいぶズレているのです。それにもかかわらず、この場のカオスな状況が見事に伝わり、思わず笑ってしまうのではないのでしょうか。

おわりに

これらのイラストを文章と照らし合わせると、不自然の感は否めません。イラストに展開というズレが孕まれているのが、その要因の一つと考えられます。しかし複数の場面展開を1枚のイラストに凝集するからこそ、言葉によらず吹き出しに頼らず、読者の心にその場の雰囲気醸し出す効果を生み出しているのです。

展開を目で追わせるのがマンガであるとする、イラストの方を好んだサンペは²⁶、独自の仕方、時間や展開を取り込もうとしていたようです。ちなみに、サンペがマンガとイラストの違いを意識していたのは間違いありませんが、イラストの初出年代に注意する限り、このような工夫をマンガ表現の発展形と位置付けるのは早急でしょう。

複数の物語を一つの画面に凝集させる工夫が、サンペの独創によるのかどうかはわかりません。しかしゴシニの文章と相まって、稀に見る成功を収めたのは読者であるあなたには確認していただけるのではないのでしょうか。

²⁶ 「僕はマンガが好きじゃないんだ。読んだこともなかったし、好きになれなかった。反対に、風刺画（ユーモラスなデッサン）にはいつも夢中だったよ。」（以下に引用されたサンペの発言。Aymar du Chatenet dir., *Le Dictionnaire Goscinny*, JC Lattès, 2003, p. 1024）

III. 資料編補遺

以下では、前稿収録の書誌情報の修正箇所及び、2020年以降に刊行された主な関連書を提示する。

III-1. 修正

『プチ・ニコラ』14分冊の〈正方形版〉(format carré) *Les vacances du Petit Nicolas* に収録された「おまけ」«*La veillée d'adieu*»は、世界文化社版『プチ・ニコラ 第0巻 (非売品、全巻購入特典)』に小野氏による翻訳が収録されているが、原文は現在(2022年12月)も『フィガロ』のインターネット上のサイトで読むことができる。*Le Figaro magazine* (2013年5月17日号)。

<https://www.lefigaro.fr/livres/2013/05/17/03005-20130517ARTFIG00639-un-inedit-du-petit-nicolas.php>

III-2. 2020年以降に刊行された主な関連書

— Gosciny et Sempé, *Le Petit Nicolas L'intégrale*, 2 vol., IMAV éditions, 2022. (番外編以外の222編全てを収録している)

映画

- Julien Rappeneau (監督), *Le Trésor du Petit Nicolas*, 2021 (日本未公開).
- Amandine Fredon et Benjamin Massoubre (監督), *Le Petit Nicolas : Qu'est-ce qu'on attend pour être heureux ?*, 2022. (アニメーション映画、日本未公開。ゴシニの娘アンヌ・ゴシニがシナリオを共同執筆している)

関連書

- Anne Gosciny et Fabrice Ascione (adaptation graphique), d'après l'œuvre de René Gosciny et Jean-Jacques Sempé, *Le Petit Nicolas : Qu'est-ce qu'on attend pour être heureux ? Le roman du film*, IMAV éditions, 2022. (映画制作に合わせて、アンヌ・ゴシニが執筆した小説。ニコラが登場し、ゴシニとサンペに執筆時の逸話を聞く物語)
- Aymar du Chatenet, *La Grande histoire du Petit Nicolas : Les Archives inédites de Gosciny et Sempé*, IMAV éditions, 2022. (ゴシニとサンペに関する未発表資料の他、マンガ版掲載時の雑誌の表紙など、多数の貴重な記録を収録した資料集)
- *Mon carnet de curiosités : Le Petit Nicolas & Deroylles*, IMAV éditions/Deyrolles, 2022. (1871年創業の、教育機関用図版などを制作しているデロル社と『プチ・ニコラ』のコラボ企画。筆者未見)